

## 議 事 録 （ 要 約 版 ）

### 【開催日】

令和8年3月12日（木） 13:30～15:00

### 【開催場所】

松本合同庁舎2階203号会議室

### 【会議事項】

- 1 ご意見に対する県の対応状況
- 2 令和7年度森林税活用事業の実施状況
- 3 令和8年度森林税活用事業の実施予定
- 4 意見交換

### 【出席構成員】（50音順）

牛山 奈々 構成員

武井 均 構成員

（構成員2名欠席）

平島 安人 構成員

平林 千代 構成員

太田 美絵 構成員

藤牧 靖次 構成員（座長）

柳澤 由香利 構成員

佐藤 喜男 構成員

### 【事務局出席者】

斎藤松本地域振興局長、丸山林務課長、池上企画幹兼普及係長、岡田課長補佐兼林産係長、青木主任森林経営専門技術員、森山林務係長、花岡主任

---

### 【会議事項 要約】

- 1 ご意見に対する県の対応状況（資料1）
  - ◆ 事務局から、森林税第4期がスタートした令和5年度以降に、構成員から出された意見に対する県全体の対応状況を報告。松本地域からの意見についても、本庁での制度検討に反映されている旨が共有され、報告の内容は構成員に了承された。
- 2 令和7年度森林税活用事業の実施状況（資料2）
  - ◆ 事務局から、森林税を活用した各種事業の令和7年度の実施状況を報告。
  - ◆ 市町村森林整備支援事業について
    - ・ 松くい虫被害対策について、効果的な事業の活用を市村等に助言するよう提案があった。

- ◆ 普及啓発活動について
  - ・ 事務局から、森林税の使い道を知らない県民が多く、クイズ等の新たな取組みは一定の効果があったとの報告。
  - ・ 一方で、複数の構成員から、イベント参加者が「もともと森林や木工に関心の高い層」に偏っているとの指摘があった。
  - ・ 公共施設や商業施設の他、市街地でのイベントや住宅関連イベントなど、森林に関心の低い層にも届く場所での PR 活動を求める意見が出された。事務局からは、来年度は松本駅や松本空港等、人が多く集まる場所での PR を検討しているとの説明があった。

### 3 令和 8 年度森林税活用事業の実施予定（資料 3）

- ◆ 事務局から、令和 8 年度各事業の要望状況と予算の見通しについて説明。
- ◆ 多くの事業で要望額が予算規模を上回っており、要望どおりの実施は困難との認識が共有された。
- ◆ 市町村森林整備支援事業の「ライフライン等の保全対策」「観光地の景観整備」「緩衝帯の整備」については、今後統合して配分される方針が示された。
- ◆ 「防災・減災のための里山整備」は特に要望が多く、調整を行いながら前年並みの確保を目指す方向が示された。
- ◆ 事業間での予算振替は制度上困難だが、要望の多い箇所を重視した予算確保が重要との意見があった。

### 4 意見交換

- ◆ 子供の頃から林業や木工に触れる機会がなければ、職業選択の対象にならないとの問題提起があった。教育機関と連携し、学校林や地域の里山を活用しながら、小学校から始まるキャリア教育の中で、子供たちが林業や木工に関心を持てる体験や環境を創出する必要性が示された。

また、教育機関への事業周知が不十分との指摘があり、地域全体への説明と連携強化が課題として挙げられた。県からは、教員向け会議等での PR を行っているが、今後も周知拡大に取り組むとの説明があった。
- ◆ 人材育成だけでなく、継続的に働けるフィールドの確保が不可欠との意見が出され、事務局から、林業の安全対策や持続的な森林経営を推進し、人材の育成と定着を進めていく方針が示された。
- ◆ 主伐・再造林の推進は重要だが、防災や水源涵養の観点から、奥山等の搬出困難地の森林整備も必要との指摘があり、事務局から、地域特性に応じた森林整備、主伐・再造林に限らない、間伐や治山事業の必要性について考え方が示された。
- ◆ 公共施設での県産材活用について、市町村に対して早い段階から働きかけが必要との意見が出された。

(Copilot による要約を元に作成)